



こんにちは!!



やまがたむら 議会 です



心機一転 議会定例会に臨む（令和4年6月6日）

ごあいさつ 2～3

新しい議会を目指して

第2回議会臨時会 2～3

第2回議会定例会 4

物価高騰対策!! 水道基本料金減免

一般質問の要約 4～8

発行：長野県山形村議会（代表）百瀬 章

編集：議会広報編集特別委員会

山形村ホームページ

TEL.0263-98-3111

<https://www.vill.yamagata.nagano.jp/>



想いをつなぐ 未来をつむぐ 議会のかたちを新しく



山形村議会議長 百 瀬 章

平成4年度第1回村議会臨時会において、議員の皆様のご推挙により、議長を拝命いたしました。誠に光栄であると共に、その責務の重大さを感じ、身の引きしまる思いでございます。現在、ロシアのウクライナ侵攻が世界の経済に大きな影響を与え、また新型コロナウイルス感染症、円安やインフレなどにより、生活様式が大きく変化しています。山形村においても、大きな時代のうねりの中にあり、今回の村議会議員選挙においては、新規の立候補者が一人もないという、かつて例をみない状況になりました。

したがって、議会改革は議員全員に課せられた喫緊の課題であり、村民の皆様方の力をお借りして推進しなければならない最重要課題と位置付けています。議員全員が危機感を共有していますので、山形村の発展のために、先頭を切って働く決意でございます。さらに、十分な機能を発揮する議会を目指すために、全議員の意見を尊重しつつ、執行部と議論を重ねます。行政と議会は車の両輪でありますので「追認機関」でも「抵抗勢力」でもない、村民の皆様の目線に立って、行政と対等な立場で職務に全力を傾注してまいります。



就任に当たって

山形村議会副議長 新 居 禎 三

このたび、村議会議員改選に伴い副議長に就任いたしました。その責務の重さに身の引き締まる思いです。

今回の議員改選選挙においては、新しい立候補者が一人もないという前代未聞の事態になり、結果全議員12人が再選ということになりました。このことは、コロナ禍がありましたが、村民の皆様に対して議員が村政を身近に感じていただく努力を怠った結果と思っています。

より身近に感じていただけるような議会改革をはじめ、未だ収束の見通しが立たない新型コロナウイルス感染症により、日常生活や経済活動に大きな影響を及ぼしていることや、地域コミュニティの再生、教育や福祉、安全安心な防災体制など、課題は山積しています。

村民の皆様様の様々な意見に耳を傾け尊重し議員どうして議論を深め解決をはかり、村民のためのより良い未来を切り開いていきます。

身近で開かれた議会を目指します。皆様にはより一層ご理解を賜りますようよろしくお願い致します。

令和4年 第2回臨時会

4月25日、令和4年第2回臨時会が開催され、議長・副議長・各常任委員長が選挙により決定し、監査委員の選任に同意した。

山形村税条例等の一部を改正する条例及び山形村国民健康保険税条例の一部を改正する条例、令和3年度山形村一般会計補正予算（第11号）の専決処分を承認した。

山形村地域経済牽引事業の促進のための固定資産税の課税の特例に関する条例の制定、職員の育児休業等に関する条例の一部を改正する条例については全会一致で可決し、一般職の職員の給与に関する条例、特別職で常勤の者等の給与に関する条例、山形村会計年度任用職員の給与及び費用弁償に関する条例、議会の議員の議員報酬及び費用弁償等に関する条例の各々の一部を改正する条例については賛成多数で可決した。

令和4年度山形村一般会計補正予算（第1号）を可決し、歳入歳出総額に5千699万2千円が追加され、総額は37億899万2千円となった。



誰一人取り残さない行政運営を!! 公正・透明・信頼の議会改革に邁進

議会運営委員長：大月民夫

直近の山形村議会議員選挙は、2010年の投票率73%から2018年には58%と15ポイントも下降し、動向が注目された本年3月の選挙は、新たに意を決した候補者の出現は皆無で、現職議員全員が無投票で引き続き拜命を受ける、過去に類を見ない結果となりました。コロナ禍による特異な閉塞感が漂う中ではありましたが、議会の責務や使命感を皆さんにお伝えする「開かれた議会」の取り組みへの力不足を猛省の上、新たなスタートを致しました。目指す方向性の一端を述べます。

議会改革協議会が始動しました

6月開催の議会全員協議会で、全ての議員が参画の基で「議会改革協議会」を推進することが全会一致で決議され、以下の2点についての集中審議からスタートした。

- * 村民と議会の懇談会を積極的に開催し、気軽に参加頂ける企画運営手法の協議。
- * 多種多様な提言等をいただく「議会モニター制度」や「議会サポーター制度」の導入に向けた協議。

公正・透明・信頼の議会運営

【公正】

議員は住民全体の利益のため、法令に基づいて公平にその権限を行使すべき立場にある。

【透明】

議会は、本会議も委員会も原則全てを公開している。

傍聴に来やすい情報発信の工夫をしていく。

【信頼】

議会は住民の負託を受け、多様な民意を吸収し、それを集約し自治体の意思決定を行う役割を負う。

意見・提言等、気軽に議員までよせていただくようお願いし、議会改革の報告とします。



参議院議員選挙 期日前投票の様子

| | | | | | | | |
|------------------------------------|--|--|--|-------------------------------------|--|---|--|
| 総務費 ○ バス回数券配布事業 100万円 | | 民生費 ○ 保健福祉センター施設整備工事 1千万円 ○ 子育て支援センター改修工事 130万円 | | 商工費 ○ 保育園MTC設置工事 550万円 | | ○ 新型コロナウイルス第6波対応事業 1千万円 業復活支援及び飲食店支援給付金 | |
| | | | | | | 1千万円 | |

補正予算の主な事業

**物価高騰対策!! 水道基本料金減免
(6ヶ月間)決まる**

令和4年 第2回議会定例会

令和4年山形村議会第2回定例会が6月6日開会し、15日までの10日間開催された。

令和4年度一般会計補正予算など(報告1件、請願1件、議案7件)を審議し、全議案を全会一致で可決した。

報 告

○令和3年度山形村一般会計繰越明許費計算書の報告について
平成3年度7事業、1億222万4千円を翌年度に繰越すもの。

議 案

- 山形村特定環境保全公共下水道山形浄化センターの建設工事委託に関する協定について
- 令和4年度山形村一般会計補正予算(第2号)歳入歳出総額に1億3千238万6千円を追加し、総額を38億4千137万8千円とするもの。
- 令和4年度山形村国民健康保険特別会計補正予算(第1号)
- 令和4年度山形村介護保険特別会計補正予算(第1号)
- 令和4年度山形村清水高原簡易水道特別会計補正予算(第1号)
- 令和4年度山形村水道事業会計補正予算(第1号)
- 令和4年度山形村下水道事業会計補正予算(第1号)

補正予算の主な事業

- 総務費**
○防災行政無線整備事業 1千761万8千円
民生費
○子育て世帯生活支援特別給付金(その他分) 500万円
- 衛生費**
○新型コロナウイルスワクチン接種関連費 897万9千円
- 土木費**
○上水道事業費(上水道基本料金減免) 2千903万円
○道路舗装補修整備等工事 900万円

一般質問 議員9人が

村政を問う

一般質問は6月7日に行なわれ議員9人が登壇、村政について質問を行なった。感染防止の観点から質問時間は一人当たり40分に短縮、マスク着用・こまめな休憩時間を挟み、会場内の換気に配慮して行なわれた。

給食費の無償化を

人口減少や定住促進の方向で、今後の政策課題とする



議員 池俊子

財源はどのくらい必要か。

A 今年度の状況では、小学校では2千587万9千890円、中学校では千576万800円、保育園副食費は3歳から5歳児が対象で千58万4千円、合計5千222万4千690円となっている。

Q コロナ禍で給食費の無償化や補助の引き上げが県内各地で取り組まれている。年間を通して無償化を実施すれば

Q 前年度は11町村1組合の給食費が0円になった。さらに軽減されている学校、今年に入り朝日村、大桑村など給食費が0円になっている。無償化あるいは補助金を付ける考えはないか。

A 今回の給食費の減免については、コロナ禍における物価高騰等に対する特別な対策として、地方創生臨時交付金を活用する。次年度以降の給食費等の無償化や補助金については、物価高騰等の緊急的な対策という考えではなく、人口減少や定住促進といった地方創生に関する考え方により、今後の政策課題としていく。

その他、水田活用交付金カットと遊休荒廃農地の拡大について質問した。

教育費

○トレーニングセンターボイラー更新工事 1千567万5千円

請 願

○えん罪被害者を一刻も早く救済するため再審制度の速やかな改正を求める請願書を探採し、意見書の提出を行なった。

工事の発注状況

○8月豪雨令和3年度河川維持工事砂防堰堤改修工事など、河川改修・道路補修工事8箇所を発注。総額は93万6千750円。

不登校児童の居場所づくりは

長 不登校児童の居場所づくりは、
教育 個別支援計画に則った幅広い検討が必要



小出敏裕 議員

傾向の児童数は7名である。

Q 不登校の要因は。

A 小学校における不登校並びに不登校傾向にある児童の実態は。

A 今年度の不登校児童数は1名、不登校

A 把握している要因は家庭環境に関わるもので、いじめや友人トラブルの案件はない。

Q 不登校・不登校傾向児童への支援の取り組みは。

A 児童との関係性を保ちながら不登校支援を行なっている。具体的には、校内関係者会議、保護者などが参加した関係者会議で、支援の方向を検討している。特徴的な取り組みとして、不登校児童などのこどもの居場所に「のびのび教室」を設置している。

Q 放課後児童クラブの定員と利用児童数は。

A しい。

A 検討していきたい。

Q 多年にわたり、イベントにより醸し出されてきた相乗効果を、引き続き得られる構想は。

A イベントを開催する目的を大切に捉え、目的達成に向けてのイベントの在り方を検討していく必要がある。具体的には、社会教育の中枢をなす公民館の分館

長会や専門部会、公民館運営審議会での検討や、

若者の考えを聞く機会を積極的に創って反映していきたいと考えている。

A 定員は、第1学舎60名、第2学舎40名、第3学舎40名の計140名。利用数は、学舎各々42名、34名、26名の計102名。

Q 子どもの居場所についての考えは。

A 児童館、山形っ子クラブ、未来塾など子どもが安心して過ごせる場所と考える。また、不登校児童には中間教室なども考えられる。

Q 複合施設での子どもの居場所は。

A 開かれた誰でも気軽に立ち寄り、自主的に活用できる弾力的な空間を想定している。不登校児童の居場所としては、個別支援計画やその運営など幅広く検討する必要がある。

村主催イベントの「リニューアル」と未来志向

長 若年層の考えを聞く機会を積極的に
教育 創り、取り組み内容に反映したい



大月民夫 議員

求める声が強いが。

A 人と人をつなぎ、支え合う地域づくりにとって、必要と考えられてきたイベントの意義や役割については大切に位置づけながら、従来の内容や運営の在り方を現在の環境に合うように見直していくことは必要だと考える。

Q 現状の「分館対抗方式」から、自らの意思で個人でも、家族でも、仲間同士でも気軽に参加できるイベントへの転換が望ま

「夏祭り山形じゃんざら」並びに「村民運動会」は、連絡班選出役員に負荷を掛けざるを得ない運営の見直しを



村内に咲くオオアカバナ
(環境省絶滅危惧Ⅱ類)



山形村図書館

教長
コロナ禍で登校を控えていた児童への学習支援は
村で先生を配置し個別指導をしている



春日 仁 議員

Q 山形小学校ではリモート授業を試みたか。

A 感染不安で欠席する児童については、

家庭にタブレットを貸し出し、リモート授業を実施した。しかし、現状では低学年の児童が児童だけでリモート授業を受けるのは困難な面もあると考えている。

Q GIGAスクール構想における「個別最適化された学び」とは、どのような取り組みか。

A 児童一人一人が学習ニーズに応じた学習をすることができ、学習履歴も自動的に記録され、児童それぞれの学習課題の把握も行なうことができるようになる。

児童の苦手な学習内容を分析し、課題解決に向かって必要な取り組みを行ない、児童の資質・能力の育成を進めていくことが可能になる。

Q ネットモラル・ICTリテラシー教育の取り組みは。

A 現在小学校では、6年間の年間指導計画をもとに、発達段階に応じてネットモラル・ICTリテラシー教育を実施している。

Q 「やまがた未来塾」でもタブレット端末を活用してみているか。

A 探究的な学びを進めるうえで効果的と思われる。条件が整えばタブレット端末の活用も考えたいと思う。

教長
性的障がいの方々への人権配慮は
性別記載の有無などを研究する



新居 禎三 議員

Q 申請書類で性別表記が必要でないと思われるものは、記載欄の廃止を考えているか。

A 性別表記欄が多数現存する状況である。性的マイノリティの方の中には性別表記によって精神的苦痛を感じる方がおられると考えられるため、必要性の有無・記載方法など他市町村の動向を踏まえ研究していく。

Q 職員に対して、これらの方々に対する理解を深め、偏見・差別・ハラスメントにならないような研修等を行なっているか。

住んで良かったと思われる住みがいのある村づくりは

長「住みやすさ」・「子育てしやすい村」はアンケート調査で高評価を受けている



上條 倫司 議員

Q 広報やまがたNo.531号の施策の満足度・重要度分析について伺う。

A 現在審議中の第6次総合計画の策定に

あたり、村の現状を知ることが必要で、無作為抽出の2千500名へアンケート調査を実施した。アンケートの設問は、「村が進めている施策のうち、40項目について満足度と重要度」を回答してもらい、満足している点や不満に

A 人権研修において「パートナリシップ制度と多様な性の理解」をテーマに行なったが、コロナ禍で人数を絞った開催であったので、今後もハラスメントの防止・人格の尊重など引き続き研修を実施したいと考えている。

Q 小学校の子どもたちに対して、これらの方々の理解を深めるための学習機会を持たれているか。

A 養護教諭が保健の授業のなかで、発達段階に応じて、性的指向・性的マイノリティについて実施している。高学年では「急激な心身の変化発達」を扱う際に、必ずしも異性を好きになるわけではないことや体の成長に違和感を感じることもあることなどを伝え、そのようなときには、養護教諭に相談してほしいと伝えている。

その他、業務で自動車使用の際はアルコールチェックをについて質問した。

思っている点を掘り起こし、施策の改善につなげるための調査となっている。

Q 村の総合評価をどのように捉え、対策をとるのか。

A 総合評価については、広報の記事のとおりに「住みやすさ」を回答者の6割超が評価し、「子育てしやすい村」も高評価を得ている。このような村の強みは更に磨くことが必要と感じている。一方、評価の低い「産業の活力」「文化的環境」「助け合い」といった分野は、審議中の第6次総合計画の中でどのような施策に取り組み、評価の低い分野を改善していくか、審議会委員の議論を参考にしている。これからの施策に展開できればと考えている。

不耕作農地の管理は誰が行なうか

基本的には所有者が行なうべきである



議員 小島 幸司

いるのが現状である。

A 村の農業委員会へ相談のうえ、有料となるが業者を紹介する。

農地の貸し借りや売買等のマッチングなど、なんとか遊休農地を減らしていくために日々取り組んでいる。

Q 地権者が管理を行

なえない場合は誰が協力すべきなのか。地元水利組合や生産組織などにも協力の限界がきて

行政としては荒廃農地を再活用するために補助金を用意しているが、なかなか申請に結びついていないのが現状だ。これ以上の手助けには限界を感じているのが実状だ。

Q 現在、農業実習を行なっている地域おこし協力隊の今後の活動目標は。

A 現在3名の協力隊員が地元農家で実習を続けている。彼らの任務のひとつとして遊休農地対策も含まれているが、具体的な効果にはまだ結びついていない。今後は農地の再生方法や活用事例の研究など、個々に実践していくことが協力隊員の課題であると認識している。

役員の選考方法に、各地域が責任を持てるような新しい提案が出来ないか

長地域の後継者難などの実情をみれば、村役の見直しが必要なのは認識している



議員 百瀬 昇一

うか。

A 区の三役は報酬金、連絡長には加入者の件数に応じての交付金としている。現行の報酬等については、内容を含め研究をしていく。

Q 地域活動の報酬・交付金・活動手当等の基準は。また、地域活動に合わせた見直しの時期が来ていると思うがど

うか。

Q ここ5年から10年の間に、空き家・空き地など管理が行き届かない家・畑・田んぼが増えていると思われるが、件数と対策は。

A 空き家については、平成29年度に業者委託をして全体の調査をした。その時には85件を確認し、そのうち管理のされていないものが25件だった。近年は詳細の調査はしていないが、空き家は増加している。空き地については把握していない。

遊休荒廃農地は令和3年度の状況は、田んぼ3.7ha、畑7.4haの計11.1haとなっている。平成30年度の12.6haと比べると、田んぼは1ha程減少しているものの、全体的には横ばいである。

この対策は、相談のあった農地や農地パト

ロールの際に近隣へ迷惑がかわかると判断した農地は、所有者へ管理をしてもらうべく、依頼等を行



山形保育園をバックにしたの田園風景



村内の遊休農地

集落支援員制度の導入は

村長 地域の維持活性化策として研究していく



三澤一男 議員

A

Q

村の全世界帯と連絡班加入世帯の現状は、世帯数3千69戸で

未加入世帯割合は

上大池区19.5%、中大池

区29.2%、小坂区35.9%、下大池区22.1%、上竹田

区36.9%、下竹田区39.7%、村全体では33.7%とな

っている。

Q 区及び連絡班に加入しない世帯が増えている主な要因は。

A 人口減少や少子高齢化、また都市化が進み地域社会の仕組みに変化が生じ、自治組織である区、連絡班、住民同士のつながりも変化している。

また個の自由度の考え方が集団や地域より優先され、転入世帯の増加による新旧住民の混在化だけでなく親子間、世代間で価値の相違が増しているのも要因ではないか。

Q 特別交付税措置のある集落支援員の区役員等への兼務は。

A 当村も地域の実情に応じた集落の維持・活性化策に、中核的な人材となる支援制度について研究していく。

その他、加齢性難聴への購入費助成について質問し、国の動向や他自治体の状況を踏まえ検討するとの答弁があった。

議会日誌

4月

12日 議会全員協議会

20日 議会懇談会

25日 令和4年第2回山形村議会臨時会
(初議会)

5月

10日 議会広報編集特別委員会

18日 海外戦没者移住物故者慰霊祭
議長

20日 議会全員協議会

25日 総務産業常任委員会

27日 福祉文教常任委員会

30日 議会運営委員会
31日 全国議長会議長・副議長研修会 (東京)

6月

6日 令和4年第2回山形村議会定例会
開会

議会全員協議会

7日 一般質問

10日 総務産業常任委員会

13日 福祉文教常任委員会

15日 令和4年第2回山形村議会定例会
閉会

21日 議会全員協議会

議会広報編集特別委員会

編集後記



同じメンバーでの新たな議会がスタートした。選挙戦も無く、それぞれのマニフェストを住民の皆さんに発表する機会もないままに。物足りなさを、そして情けなさを感ずる。

多分、山形村の歴史を振り返ってみても初めてだと思う。

村民の皆さんからも議会活動の低調の批判をたくさん聞き、マスコミからも批判を受けた。

任期が始まったばかりだが、気を引き締めて住民の皆さんのたくさんの声を聞き、議会活動に取り組みたいと思う。

(大池俊子)



発行責任者

議長 百瀬 章

議会広報編集特別委員会

委員長 小出 敏裕

副委員長 大池 俊子

委員 竹野入恒夫

委員 百瀬 章

委員 百瀬 昇一

委員 三澤 一男